

佐波川水系の減災に係る 取組内容と現状確認

令和2年12月

取組内容と現状確認

取組内容

- 概ね5年(令和2年度まで)で実施する取組として、36項目を定め、各機関で実施中
 - 迫り来る危険を認識した的確な避難行動のための取組(27項目)
 - 地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動(6項目)
 - 長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策(3項目)

取組状況

- 36の取組項目のうち、令和元年度に28項目が完了(実施済みを含む。以下同じ)
- 令和2年度に3項目が完了(予定を含む)⇒計31項目が完了
 - 危機管理型水位計の整備(完了)【中国地方整備局】
 - 佐波川(直轄管理区間)の26箇所を設置(令和2年度に8基増設)
 - 簡易型河川監視カメラの整備(完了予定)【中国地方整備局】
 - 佐波川(直轄管理区間)の18箇所を設置(令和2年度に6基増設)
 - 想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成・配布(完了)【山口市】
 - 山口市(徳地)のハザードマップの作成及び配布
- 令和2年度で未完了の取組項目(5項目)
 - 堤防整備、河道掘削及び漏水対策
 - スマートフォン等へのプッシュ型の洪水情報発信(未実施自治体への配信)
 - 洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設への水位情報の提供等の検討・実施
 - 洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設による避難確保計画作成に向けた支援の実施
 - 想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づく広域避難の検討

取組内容と現状確認（第8回佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会）

資料3-1

① 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

取組項目	開始時期 又は 目標時期	取組機関	現状 R2年9月末 時点	具体的な取組内容
■洪水氾濫を未然に防ぐ対策（ハード整備）				
・堤防整備、河道掘削及び漏水対策	順次実施	中国地方整備局	実施中	対策必要延長：4.2km 対策完了延長：4.0km（進捗率95%）
■危機管理型ハード対策（ハード整備）				
・堤防整備（堤防裏法尻の補強）	順次実施	中国地方整備局	完了	対策必要延長：2.5km 対策完了延長：2.5km（進捗率100%）R2.3対策完了
■避難行動、水防活動に資する基盤等の整備（ハード整備）				
・アラートの活用による多様なメディアを通じた住民への迅速・確実な防災情報の伝達	H29年度	山口県	完了	Lアラート運用開始：H29年4月
・大雨警報（浸水害）・注意報、洪水警報・注意報の精度向上	H29年度	下関地方気象台	完了	流域雨量指数向上（1kmメッシュ）：H29年7月 洪水災害危険度分布提供：H29年7月
・河川水位情報のプッシュ型配信の拡充	H30年度	山口県	完了	県防災情報システムに国管理の水位観測所追加：H30年4月
・スマートフォン等へのプッシュ型の洪水情報発信	H28年度～	中国地方整備局	一部完了	防府市内のプッシュ型配信開始：H29年5月 山口市内への配信について今後検討
・CGTV等を活用したわかりやすい情報の発信	H28年度	中国地方整備局	完了	HPへの配信カメラ増（4台→20台）：H29年4月 平時と洪水時の状況比較、河川横断図同時提供：H29年4月
・危機管理型水位計（簡易水位計）の整備	H30年度～	中国地方整備局	完了 (R2.11時点)	佐波川直轄管理区間に計26基設置完了：R2年11月
・簡易型河川監視カメラの整備	R元年度～	中国地方整備局	一部完了	佐波川直轄管理区間に計18基設置完了 R2年度末に計18基設置予定
・全天候型ドローンの配備	R元年度	中国地方整備局	完了	山口河川国道事務所に1台配備：R2年2月
■情報伝達、避難等に関する取組				
・【県管理区間】の想定最大規模降雨における浸水想定区域図の公表	H30年度	山口県	完了	島地川浸水想定区域図公表：H31年3月
・想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成・配布	H28年度～	山口市、防府市	完了	防府市作成・配布完了：H29年6月 山口市作成・配布完了：R2年6月
・訓練や防災教育等への洪水ハザードマップの活用	H30年度～	協議会全体	実施済	住民との合同点検や出前講座で活用 山口県：「避難カード」による防災学習で活用
・想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図、新たに設定された家屋倒壊等危険想定区域等に基づく地域防災計画等の見直しの検討	H28年度～	山口市、防府市、山口県	完了	防府市完了：H29年9月 山口市完了：R2年3月
・想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づく避難勧告等の判断基準・対象エリアの見直しの検討	H30年度～	山口市、防府市、山口県	完了	防府市完了：H29年4月 山口市完了：R2年3月
・洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設への水位情報の提供等の検討・実施	H29年度～	山口市、防府市	一部完了	防府市：H29年度よりFAKによる情報提供開始（R2年度は1回提供（7/14）） 山口市：令和2年6月山口市地域防災計画の見直しに合わせて検討・実施
・洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設による避難確保計画作成に向けた支援の実施	H29年度～	山口市、防府市、山口県、 中国地方整備局	実施中	防府市：145施設中130施設作成済（R2.6末時点） 山口市：11施設中7施設作成済（R1.12末時点） 山口県：啓発用リーフレットの配布（全県）
・想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づく広域避難の検討	H29年度～	山口市、防府市、山口県	実施中	山口市：R2年度から検討 防府市：H29年4月 避難所数、収容人数の基礎情報整理（引き続き検討中）
・関係機関と連携したタイムラインの更新	H28年度～	協議会全体	完了	多機関連携型タイムラインへ移行
・道路管理者、交通サービス、ライフライン等の大規模災害時に対応に必要な関係機関と連携したタイムラインの策定（多機関連携型タイムライン）	R元年度	協議会全体	完了	佐波川水害タイムライン策定：R2年1月
・タイムラインに基づく情報伝達訓練の実施	H29年度～	協議会全体	実施済	タイムラインに基づいた訓練を実施：R2年5月27日
■防災学習の推進及び防災知識の普及・啓発				
・教育機関と連携した防災学習の実施	H28年度～	協議会全体	実施済	防府市：「のびゆく防府」教材を活用した教育：R元年4月～（4年生を対象にR2年9月末実施済） 山口県：「避難カード」を活用した防災学習
・防災シンポジウム等の開催及び出前講座等による講習会の実施	継続実施	協議会全体	実施済	山口市出前講座：今年度14回実施済 防府市出前講座：今年度1回実施済 山口河川国道出前講座：今年度1回実施済（R2.12月1回実施予定）
・「水防災意識社会」の再構築に役立つ広報活動の推進	継続実施	山口県、中国地方整備局	実施済	出前講座等で広報
・自主防災アドバイザーの養成	継続実施	山口県	実施済	研修実施（R2.3末時点で累計458人受講）
・洪水に対してリスクの高い区間の住民との共同点検	継続実施	山口市、防府市、 中国地方整備局	未実施 (コロナ影響)	山口市、防府市：中国地方整備局と合同実施 (R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため未実施)
・佐波川ダムの効果やダム操作について住民の理解を深めるための説明会の実施	R元年度～	山口県	未実施 (コロナ影響)	「森と湖に親しむ旬間」においてダム見学会を実施し、ダムの効果、役割、ダム操作について説明（R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で未実施）

② 地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動

取組項目	開始時期 又は 目標時期	取組機関	現状 R2年9月末 時点	具体的な取組内容
■水防活動の効率化及び水防体制の強化				
・CGTV等によるわかりやすい情報の発信及び活用	H28年度	山口市、防府市、 中国地方整備局	完了	山口河川国道事務所HPへ掲載
・アラートの活用による多様なメディアを通じた水防回への迅速・確実な防災情報の伝達	H29年度	山口市、防府市、山口県	完了	Lアラート運用開始：H29年4月
・迅速な洪水予報を行うための訓練の実施	継続実施	下関地方気象台、 中国地方整備局	実施済	洪水予報訓練実施：R2年5月 実施
・市及び県へ派遣するリエゾンの入手情報リストの作成	H29年度	中国地方整備局	完了	リスト作成：H29年12月 ※変更がある場合適宜更新
・水防資機材の情報共有及び相互支援方法の確認	H28年度～	山口市、防府市、山口県、 中国地方整備局	未実施 (コロナ影響)	情報共有・支援方法（水防回合同巡視） 山口市、防府市：中国地方整備局と合同実施 (R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で未実施)
・市庁舎等の浸水に備えた業務継続計画の検討	H28年度～	山口市、防府市、山口県	完了	山口市：H29年3月作成 防府市：H29年12月作成 山口県：H26年7月作成（防府総合庁舎）

③ 長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策

取組項目	開始時期 又は 目標時期	取組機関	現状 R2年9月末 時点	具体的な取組内容
■排水活動及び施設運用に関する取組				
・排水施設の簡易的な浸水対策の実施	H28年度	防府市	完了	排水施設に土のう配備：H29年3月
・排水施設の情報共有、大規模な浸水を想定した排水計画の作成	H28年度～	山口市、防府市、山口県、 中国地方整備局	完了	大規模浸水を想定した排水計画作成：H31年3月
・排水ポンプ車を用いた排水訓練の実施	継続実施	中国地方整備局	実施済	排水訓練実施：R2年5月

- ：訓練や出前講座など、毎年継続的に実施するもの
- ：ハード整備やシステム構築など、整備すれば完了する取組で目標を達成したもの【完了】
- ：取り組みを実施中、又は一部完了したもの
- ：令和2年度に完了又は完了予定のもの

令和2年度の主な取組

令和2年12月

洪水氾濫を未然に防ぐ対策(ハード整備)

取り組み項目	開始・目標時期	取組機関	現状 (R2年9月末時点)	具体的な取り組み内容
堤防整備、河道掘削及び漏水対策	順次実施	中国地方整備局	実施中	対策必要延長：4.2km 対策完了延長：4.0km（進捗率95%）

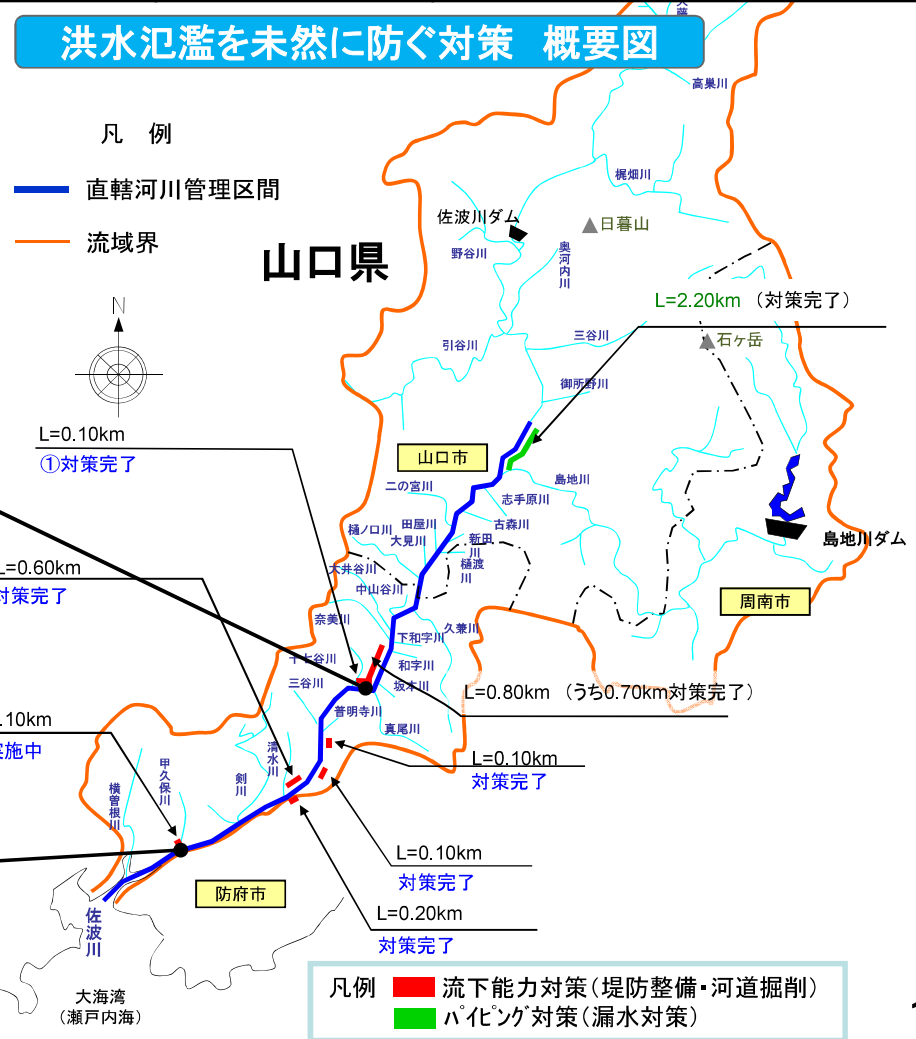
平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえて設定した、堤防整備・河道掘削等の流下能力向上対策、浸透・パイピング対策等に関し、優先的に対策が必要な区間について令和2年度を目途に、対策を実施。

洪水氾濫を未然に防ぐ対策 概要図

① 築堤（睦美橋の架替え）

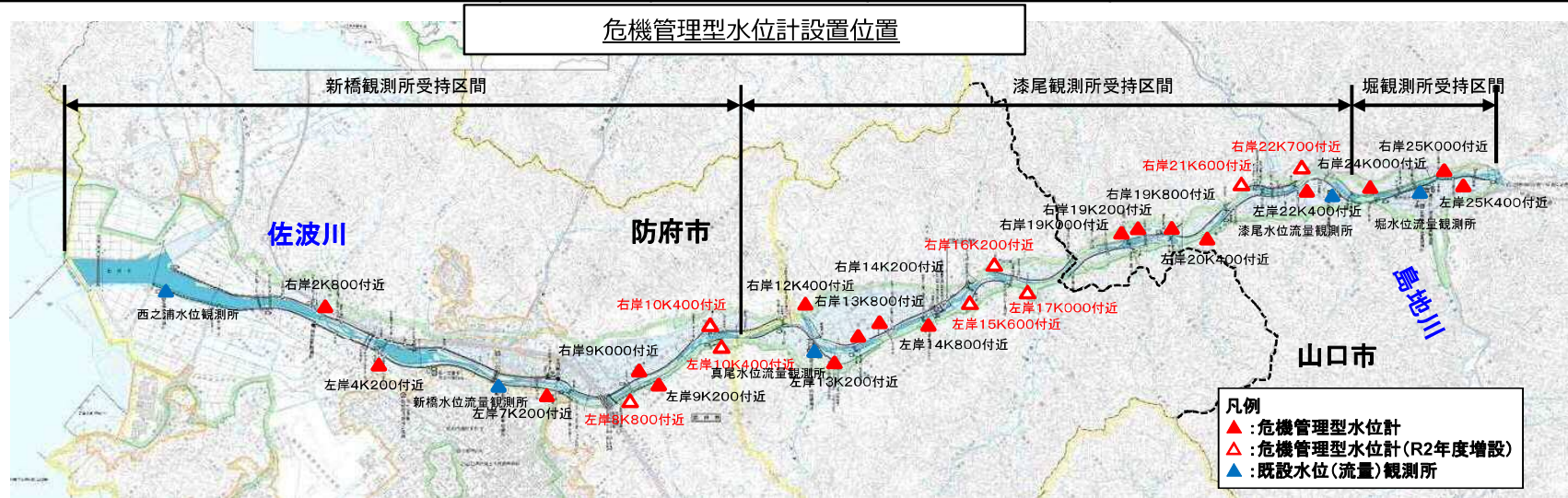


② 築堤（甲久保支川処理）



■避難行動、水防活動に資する基盤等の整備(ハード整備)

取り組み項目	開始・目標時期	取組機関	現状 (R2年11月時点)	具体的な取り組み内容
危機管理型水位計 (簡易水位計) の整備	H30年度～	中国地方整備局	完了	危機管理型水位計26基設置 (R2年11月完了)



危機管理型水位計のホームページ (川の水位情報 URL <https://k.river.go.jp/>)



■避難行動、水防活動に資する基盤等の整備(ハード整備)

取り組み項目	開始・目標時期	取組機関	現状 (R2年9月末時点)	具体的な取り組み内容
簡易型河川監視カメラの整備	R元年度	中国地方整備局	一部完了	簡易型河川監視カメラ12基設置完了 R2年度末までに全18基設置完了予定

令和元年度から、佐波川の危険個所に設置している「簡易型河川監視カメラ」(従前のCCTVに比べて低コストで設置でき、webサイトで住民がカメラ画像を閲覧することで、危機感を伝え避難行動を促す)について、令和2年度に6基を増設する。



簡易型河川監視カメラ

閲覧画面 川の水位情報
(<https://k.river.go.jp/>)

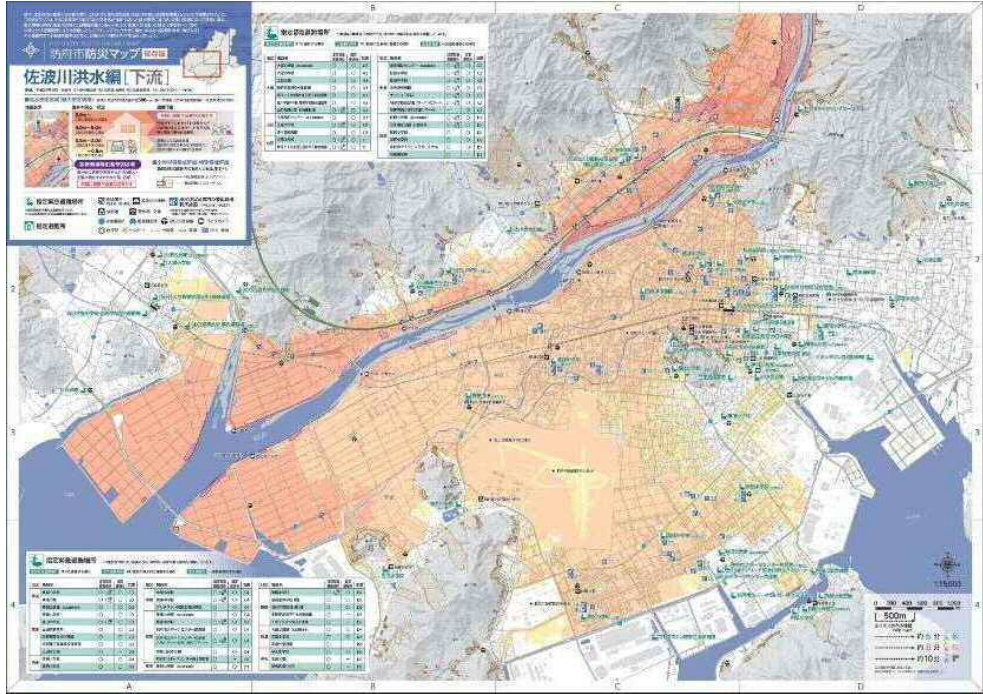


簡易型河川監視カメラ設置位置

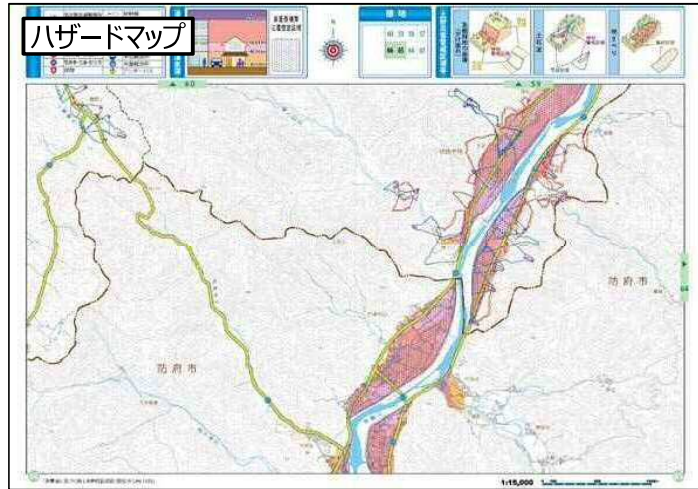
情報伝達、避難等に関する取組

取り組み項目	開始・目標時期	取組機関	現状 (R2年9月末時点)	具体的な取り組み内容
想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成・配布	R2年度	山口市・防府市	完了	防府市：作成・配布完了 (H29年6月) 山口市：作成・配布完了 (R2年6月)

国土交通省が平成28年5月に告示した佐波川洪水浸水想定区域図及び山口県が平成31年3月に告示した島地川洪水浸水想定区域図を基に山口市及び防府市がハザードマップを作成する。
山口市は令和2年6月にハザードマップの作成及び配布を完了した。



防府市防災マップ (佐波川洪水編 下流)



山口市防災ガイドブック

■情報伝達、避難等に関する取組

取り組み項目	開始・目標時期	取組機関	現状 (R2年9月末時点)	具体的な取り組み内容
訓練や防災教育等への洪水ハザードマップの活用	H30年度～	協議会全体	実施済	住民との共同点検や出前講座等で活用 山口県：避難カードによる防災学習で活用

自主防災会等を対象にした出前講座で、ハザードマップを活用している。
ハザードマップ等を活用し、地域の災害リスクや避難のタイミングなどをまとめる「避難カード」を県内各小中学校に配布（児童・生徒数分）し、教育機関と連携した防災教育を進めている。（令和2年5月～）
マイ・タイムラインの取組の普及・促進を図るための指導員養成を目的とした、自治体防災担当者向けの講習会を開催した。（令和2年11月）

マイ・タイムライン講習会



マイ・タイムライン講習会（R2年11月17日）

避難カード

大丈夫？自分の家は？おじいちゃん、おばあちゃんの家は？

わたし（山口〇〇）の避難カード **記入例**

《自宅の災害リスクと避難のタイミング》

災害の種類	どのような危険があるか (危険リスク)	いつ逃げるか (避難の経路・タイミング)	どこに逃げるか (避難場所)
土砂災害	土砂災害特別警戒区域の中 (すぐ危険なところ)	警戒レベル3が出たらすぐに	〇〇小学校体育館
川の氾濫	〇〇川が氾濫したら、水深50cm以下 (家の中で避難すれば大丈夫)	〇〇観音所の水位が、氾濫危険水位に達したら	家の2階

《家族や隣りになる人の緊急連絡先》

名前	連絡先
お父さん	090-0000-9999
お母さん	080-0000-9999
自治会長	083-0000-9999

《持ち出すもの（避難所で手に入らないもの）》

- 防災リュック
- 携帯充電器
- 懐中電灯
- 防災ガイドブックで詳しく調べてみよう

《避難で呼びかける人とタイミング》

声をかける人 (一緒に逃げる人)	いつ声をかけるか (声をかけるタイミング)	連絡先	気をつけること (持ち物など)
隣の田中さん	警戒レベル3が出たらすぐ	直接呼びに行く	薬をもって避難する

《家の周りの地図》

※県ウェブサイト「やまぐち防災学習館
(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10900/a10900bousai/bousaigakusyukan.html>)」で避難カードのデータや「避難カードの作り方」に関する動画を掲載中

■防災学習の推進及び防災教育の普及・啓発

取り組み項目	開始・目標時期	取組機関	現状 (R2年9月末時点)	具体的な取り組み内容
防災シンポジウム等の開催及び出前講座等による講演会の実施	継続実施	協議会全体	実施済	山口市：出前講座 今年度14回 防府市：出前講座 今年度7回 山口河川国道：出前講座 今年度1回 (R2.12に2回目を予定)

小学校や自治会等を対象に、防災意識の向上を目的とした出前講座を今年度も実施した。



防府市：右田小学校出前講座
(R2年9月30日)



山口市：仁保地区自主防災研修会
(R2年6月19日)



山口河川国道：山口市立八坂小学校出前講座
(R2年11月6日)

■防災学習の推進及び防災教育の普及・啓発

取り組み項目	開始・目標時期	取組機関	現状 (R2年9月末時点)	具体的な取り組み内容
自主防災アドバイザーの養成	継続実施	山口県	実施済	研修実施(累計458人委嘱(R2.3末時点))

今年度も「自主防災アドバイザー」の養成研修を行っており、年度末に最後の養成研修を行う予定。
「自主防災アドバイザー」は、養成研修を終了し、アドバイザーとしての活動を承諾された方に委嘱する。

【自主防災アドバイザー制度】

県で定めた研修を受け、防災に関する知識と自主防災組織への指導・助言を行えるスキルとノウハウを備えた方で、自主防災組織等の活動促進に寄与する意欲を持つ方をアドバイザーに委嘱・登録し、自主防災組織等からの依頼に基づき、各地域に派遣する制度。



自主防災アドバイザー養成研修 (R2年10月)

取組方針5年間の総括

令和2年12月

1. 取組方針策定時の課題に対する現時点の状況

- 「佐波川水系の減災に係る取組方針」では、策定時（平成28年）に抽出された、流域の現状（11項目）を踏まえたそれぞれの課題に対して、概ね5年間で実施する取組が設定され、構成機関によって取り組みが進められてきた。
- 概ね5年間で実施する取組について、令和2年度に当初の取り組み期間を迎えることを踏まえ、令和2年度末時点における当初課題への取り組み達成状況を整理した。

1. 取組方針策定時の課題に対する現時点の状況

① 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

黒字：完了（継続が必要な取組を含む）

赤字：実施中

項目	H28策定時点の課題	R2年度末時点の取組状況
洪水を安全に流すためのハード対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●無堤地区や計画断面に対して高さや幅が不足している箇所があり、洪水により氾濫するおそれがある。 ●堤防が決壊するまでの時間を少しでも延ばす対策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○無堤地区や計画断面に対して高さや幅が不足している箇所について、洪水を安全に流下させるよう堤防・河道整備及び浸透対策を推進 ○堤防が決壊するまでの時間を少しでも延ばす堤防補強対策を完了
リスクの周知	<ul style="list-style-type: none"> ●【県管理区間】の想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域について早期に検討し、公表を行う必要がある。 ●想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域に基づき、ハザードマップの作成及び周知を行う必要がある。 ●水害リスク情報を住民にわかりやすいものとするため、内容や伝達方法などを改善する必要がある。 ●気象庁の発表する警報・注意報等について精度向上を行う必要がある。 ●住民や学校等に対する防災学習を一層充実する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【国管理区間】、【県管理区間】、【島地川ダム下流区間】において、想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域等を公表 ○【国管理区間】、【県管理区間】の想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域に基づいてハザードマップを作成、配布 ○報道機関等を通じた警報・注意報等の情報伝達やウェブサイトによる情報提供を実施 ○洪水に対してリスクの高い区間について沿川住民、自治体との共同点検を実施 ○危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラ（一部完了）を整備し水位情報、画像をウェブサイトで公開 ○報道機関や各構成機関のウェブサイト等を通じて水害リスク情報の周知を実施 ○流域雨量指数の精度向上、洪水災害危険度分布の提供により大雨警報（浸水害）・注意報、洪水警報・注意報の精度向上を実施 ○防災についての講演会や防災学習を実施

1. 取組方針策定時の課題に対する現時点の状況

① 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

黒字：完了（継続が必要な取組を含む）

赤字：実施中

項目	H28策定時点の課題	R2年度末時点の取組状況
洪水時における行政間の情報提供等の内容及びタイミング	<ul style="list-style-type: none"> ●想定最大規模降雨における洪水浸水想定に基づいたタイムラインに見直す必要がある。 ●タイムラインに沿った情報発信について訓練を行う必要がある。 ●情報の相互伝達にCCTVの画像など地区ごとに河川の状況を把握できるようにすることが必要である。 ●国・県・市相互の道路・河川の管理者間における情報共有が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○想定最大規模降雨における洪水浸水想定に基づき、道路管理者、交通サービス、ライフライン等の大規模災害時に対応が必要な関係機関と連携した多機関連携型タイムラインを策定 ○多機関連携型タイムラインに沿った情報の相互伝達訓練を実施 ○CCTV配信箇所の増設、簡易型河川監視カメラ（一部完了）の設置により地区ごとに河川の状況を把握できる環境整備を実施 ○Lアラートの活用によりインフラ管理者相互及び住民への情報共有を実施
避難勧告等の発令基準	<ul style="list-style-type: none"> ●想定最大規模降雨における洪水浸水想定に対応した避難勧告等の判断基準・対象エリアの見直しを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○想定最大規模降雨における洪水浸水想定に対応した避難勧告等の判断基準・対象エリアの見直しを行っている。
避難計画など住民等の避難体制	<ul style="list-style-type: none"> ●想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域に基づき、指定緊急避難場所及び指定避難所等、地域防災計画の見直しを検討する必要がある。 ●想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域に基づき、広域避難の検討をする必要がある。 ●想定最大規模降雨における要配慮者利用施設の避難対策を検討する必要がある。 ●周囲の人にも避難行動を促す「率先避難者」の養成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域に基づき、指定緊急避難場所及び指定避難所等、地域防災計画を見直し ○想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域に基づき、広域避難検討を実施中 ○想定最大規模降雨における要配慮者利用施設の避難計画策定、避難訓練を実施中 ○講習会により自主防災アドバイザーの養成を実施

1. 取組方針策定時の課題に対する現時点の状況

① 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

黒字：完了（継続が必要な取組を含む）

赤字：実施中

項目	H28策定時点の課題	R2年度末時点の取組状況
住民等への情報伝達の体制や方法	<ul style="list-style-type: none"> ●わかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化などを検討する必要がある。 ●洪水時の情報伝達方法について、住民の認知度の向上につながるよう改善する必要がある。 ●想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域にある、要配慮者利用施設への情報伝達を見直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化のため、ハザードマップ作製やプッシュ型の情報発信を実施 ○洪水時の情報伝達方法について、住民の認知度の向上につながるよう講習会等を実施 ○洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設への水位情報の提供等の検討を実施

1. 取組方針策定時の課題に対する現時点の状況

②地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動

黒字：完了（継続が必要な取組を含む）

赤字：実施中

項目	H28策定時点の課題	R2年度末時点の取組状況
河川水位等に係る情報提供	●河川水位の状況に合わせた更なる迅速・確実な情報提供が必要である。	○全天候型ドローン配備 ○CCTV等によるわかりやすい情報の発信及び活用 ○Lアラートの活用による多様なメディアを通じた水防団への迅速・確実な防災情報の伝達 ○迅速な洪水予報を行うための訓練の実施
河川の巡視	●水防団の活動状況について行政間での一層の情報共有が必要である。	○市及び県へ派遣するリエゾンの入手情報リストを作成
水防資機材の整備状況	●関係機関の保有資機材の情報共有を図る必要がある。	○水防団合同巡視により関係機関の保有資機材の情報共有を実施
市庁舎等の水害時における対応	●想定最大規模降雨における洪水に備え、市庁舎等において、業務が継続して行えるよう検討する必要がある。	○想定最大規模降雨における洪水に備え、市庁舎等において、業務継続計画を作成

③長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策

項目	H28策定時点の課題	R2年度末時点の取組状況
排水施設、排水資機材の操作・運用	●想定最大規模降雨における洪水により浸水し稼働停止する排水機場の浸水・排水対策について検討する必要がある。 ●浸水が長期化しないよう、氾濫水を効果的に排水するための応急的な災害対策車両・機器の配置計画等を検討する必要がある。	○想定最大規模降雨における浸水区域内の排水施設に簡易的な浸水対策を実施 ○大規模な浸水を想定した排水計画作成 ○計画に基づく排水訓練実施

2. 5年間の総括と今後の取り組みに向けて

- 当初課題のうち、多くの取組が達成されているが、未達成の課題、継続して実施する事項がある。

取組の柱	当初課題の達成状況
①迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組	<ul style="list-style-type: none">・洪水リスクの周知等は、達成されている。・ハード対策、非常時に円滑に避難を行うための準備や、避難情報の伝達方法について、未達成であるため、引き続き<u>達成に向けた取組を進める</u>必要がある。・防災学習や行政間の情報伝達訓練など<u>毎年の取組を、引き続き実施</u>していくことが必要である。
②地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動	<ul style="list-style-type: none">・当初課題は、協議会での取組により達成されている。・今後は、水防訓練など<u>毎年の取組を、引き続き実施</u>していくことが必要である。
③長期化する浸水を一日も早く解消するための排水対策	<ul style="list-style-type: none">・当初課題は、協議会での取組により達成されている。・今後は、排水訓練など<u>毎年の取組を、引き続き実施</u>していくことが必要である。



令和3年度以降も、引き続き流域の関係機関が連携して、佐波川の減災に係る取り組みを推進していく必要がある。